

潮流

6月～9月のメモ
~~~~~

## 活動メモ

機関誌・紙／自主流通誌・紙

新刊書籍

# 潮流

6月～9月のメモ  
~~~~~

構成・戸駒恒世

▽月報「岩佐作太郎遺稿集刊行会」1号

(東京)

「岩佐作太郎の思想的特質」信

太裕

▽リベルテール 6号 (東京・練馬区大泉

学園町二一九〇萩原晋太郎方 リベルテ

ールの会) 「構造主義と科学的アナキズ

ム」 塩長五郎

▽サルートン通信 164号

▽不定期便 8号 (東京・文京区春日一

二一七一五〇六 ひろせしんじ＆ひらの

みえこ) *二人の個人紙(?)

▽機関誌・紙／自主流通誌・紙

▽交流会通信 4号 (東京地区月例交流会)

「金憲基さんに特別在留許可を」「八木

竜実君に支援を」

▽浦和市民新聞 13・14合併号 (浦和市岸

町四一二四一五 同社) 「だからセク

トはだめなんだ」

会はじまる (東京)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

エンリコビルでエスペラント講習

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

エンリコビルでエスペラント講習

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

ランダウアのロマン主義的社会主義」 ユ
ージンヌ・ラン

▽サルートン通信 162号 (大阪市阿倍野区

旭町一一一二一泉原文化内 向井孝

「助ッ人同盟参加のすすめ」

▽長野共同新聞 18号 (長野中央局私書箱

六二号) 「自衛隊慰問拒否の立場とは何

か

▽月報「岩佐作太郎遺稿集刊行会」 1号

(東京) 「岩佐作太郎の思想的特質」信

太裕

▽リベルテール 6号 (東京・練馬区大泉

学園町二一九〇萩原晋太郎方 リベルテ

ールの会) 「構造主義と科学的アナキズ

ム」 塩長五郎

▽サルートン通信 164号

▽不定期便 8号 (東京・文京区春日一

二一七一五〇六 ひろせしんじ＆ひらの

みえこ) *二人の個人紙(?)

▽機関誌・紙／自主流通誌・紙

▽交流会通信 4号 (東京地区月例交流会)

「金憲基さんに特別在留許可を」「八木

竜実君に支援を」

▽浦和市民新聞 13・14合併号 (浦和市岸

町四一二四一五 同社) 「だからセク

トはだめなんだ」

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

エンリコビルでエスペラント講習

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

恐起社)

▽野中の一軒家 15号 (多摩市一の宮八九

五一〇一號野中の一軒家) 「グスタフ

トはだめなんだ」

7・8・4 日本アナキズム研究セン

ター 夏のセミナーとキャンプ

- ▽無政府主義研究 2号（東京・豊島区高田三一三八一三高田ハイツ二〇六号玄曜社）「アナキズムと革命原理」埴谷雄高「△壤夷論」と西欧」片岡啓治
- ▽哇ウエオ個人詩 3号（練馬区上石神井一一七四〇人間社）
- ▽黒の手帖 17号（東京・新宿区北山伏町三三大沢方 黒の手帖社）「ランダウア・生涯と思想」長谷川進
- 7月
- ▽黒旗の下に 2号（東京・文京区後楽二一七一五啓衆ビル四階ランチヨ氣付）「赤と黒との対決」白井新平
- ▽サルートン通信 163号「家について」▽らくがき 10号（堺市西野三九七松美莊 8号 井上英一）木個人詩（？）
- ▽Radical 164（英語版 ラディカル）ルル」
- ▽月報 2号「岩佐作太郎の真骨頂」布留川桂
- ▽リベーロ 19号（京都市左京区田中門前町二八一五 リベーロ社）
- ▽リベルテール 7月号
- ▽長野共同新聞 19号
- ▽日本アナキズム研究センター夏のキャンプー レジュメ一
- ▽浦和市民新聞 15号
- ▽哇ウエオ個人詩 4号
- 8月
- ▽白夜通信 1号「保安処分のイデオロギー」若山幹夫「革命における生活の問題」柏木令二
- ▽だらしねの旗 0号の2（大阪市旭区高殿局留 だらしね舎）「七夕は穢された」選挙といふ踏絵（？）「亞州」
- ▽非暴力直接行動 1号（姫路市龜山三五四向井方 戦争抵抗者インター日本部）
- ▽月報 3号「日本におけるクロボトキノ主義」信太裕
- ▽汎世界運動 3号（ろうみん社）
- ▽サルートン通信 165号・166号「助ッ人稼業五つの大切」上・下
- ▽月報 20号「アナキズム方法論（1）」坂入純一
- ▽リベーロ 8月号「アナキズム方法論（1）」坂入純一
- ▽イオム討論資料 ③「各種組織体綱領」（神戸市葺合区熊内町一一五一三前田幸長方 イオムの会）
- ▽アナキズム 4号
- ▽べらぼうな通信 6号（東京・江東区大島二一三六一米津方 ベラボーナ・グルーポ）「文庫整理中間報告」向井孝
- ▽Sori 企 2号（東京・世田谷区代田六一七一三田中アパート一階 上村滋）「△韓国」とはどこにあるのか！」
- ▽不定期便 10号「大逆事件との出会い」▽サルートン通信 168号「八月一五日の朝と夜」
- ▽哇ウエオ個人詩 10号
- 9月
- ▽イオム 6号「労働に関する断章・その2」日野善太郎「ある疑問のとばくちし中本弥三郎氏のことから（）」寺島珠雄「江西一三とその時代・完」向井孝「△詩△風景」山口英
- ▽れんげ通信 4号（宇治市宇治蓮華九五北村方 大江音人）「8・15反戦の夕」▽サルートン通信 169号
- ▽日々の泡 0号（春日井市前並町字左右分七一一一 上原美代子）「泡のたつよどみから」「書きかけて終った手紙」

▽クバール通信 0号（神戸市灘区岩屋北町三丁目四一戸田方 クバール）

「読者への手紙 —クバール・グループの出発にあたって—」

▽リベーロ 21号

▽リベルテール 9月号

▽アナーキスト陣営内の共働と連帯について（はしもとよしはる）

▽サルートン通信 170号 「家について」

▽日本無政府主義者連盟準備会ニュース1号

▽日本無政府主義者連盟準備会ニユース1号

▽哇ウエオ個人詩 6号

新刊書籍

6月

▽日本無政府共産党 相沢尚夫 海燕書房
▽黒いパリ 江口幹 筑摩書房
▽大杉栄集（近代日本思想大系20巻）

大沢正道・編・筑摩書房

7月

▽反体制エスペラント運動史

大島義夫・宮本正男 三省堂

8月

▽石川三四郎の思想と生涯

学問と愛そして反逆 上巻

愚かな彼、愚かな道 下巻

▽リベルテール 9月号

▽アナーキスト陣営内の共働と連帯について（はしもとよしはる）

▽サルートン通信 170号 「家について」

▽日本無政府主義者連盟準備会ニュース1号

▽日本無政府主義者連盟準備会ニユース1号

アナキスト詩集 秋山 清編

海燕書房・刊

新刊書籍

萩原恭次郎、岡本潤、小野十三郎、植村謙、伊藤和、猪狩満直、秋山清、押切順三、高島洋、向井孝。この10人の詩人の作品が

『アナキスト詩集』には収録されている。

編者・秋山清の『あとがき』によると、このアンソロジーへの収録の基準は、「アナ

キズム運動の広い各現場における活動にもかかわってきた、だから詩壇的な詩人とはいささか離れ、そして割と力量ある詩人」という点にそのいとぐちを求めることがで

きる。この比較的長い『あとがき』には、この間秋山が精力的に論究して来た「アナ

キズム文学史』へ文芸展望74春号▽をふまえて）簡潔に、しかもかなりに濃い密度で語られている。

ほとんど変わらない比重で並べられた戦前戦後のそれぞれ特色的ある詩人達10人の作品によって読者がさし出されるのは、一見

刺激的な本書のタイトルそのものよりも、「あとがき」にある次の言葉にちがいない。「しかし、ではこの本は過去を編纂したものが、という間あらば私は否とこたえねばならない。ここには戦後の詩人も登場し、彼らは戦後のそれぞれの地域におけるアナキズム的な社会活動——反戦、平和、非暴力なる直接行動、反安保、反政治、反政党等々の活動に自分を投じつゝ、そこから彼らの詩を生んでいる。失敗し、変貌し、なお『アナキスト詩集』に名を止める戦前先輩の跌を踏むまいと現実の努力をつづけていいる。」

ちなみに、収録された10人の詩人については簡単な歴歴があるだけで、その他に解説らしきものは全くといっていいほどない。